

有限会社 織笠工務店

ユーザー訪問

姥名晃一様邸

- 上北郡東北町旭北
- 2010年10月竣工
- 延べ床面積/59.6坪(196.72㎡)
- 使用青森県産材/スギ(柱、桁)、アカマツ(梁)、ヒバ(造作材)など。



エコポイント活用し テラスを ウッドデッキに

ご主人の話 すごく得した気分でしたね、あのときは。県のエコポイントです。もし、エコポイントがなければ、そのこのテラスは(掃き出し窓の外を指差して)タタキを打っただけでしたからね。そしてたら、織笠さん(織笠拓重社長)が、県のエコポイント使って、タタキの上に木を敷けるって言うんですよ、ウッドデッキ(カラマツ)ですね。コンクリートだけのタタキよりも、木の方が断然あつたかみがあつていいじゃないですか。家内なんか思わず「ラッキー」って喜びましたよ。

織笠さんによると、そのエコポイントは正式には『あおり型県産材エコポイント』というのだそうで、1軒の家に青森県産の木材を80%以上使えば、県産材で製作した家



県のエコポイントを使ってできたカラマツのウッドデッキ

具とか建具とか、木の内装材とかと交換できるんだそうです。青森県が今年度(2010年度)から始めた制度で、全国

で初めてなんだそうです。聞いて初めて知りましたよ。そういった新間の広告とかで見たような気がするけど、



たいがい、詳しいことは工務店さんにお任せじゃないですか。

「良かったのは、県のエコポイントだけじゃなく、国のエコポイントも使えたことです。それも織笠さんに聞いて知ったことですね。」

織笠社長の話 国が定める省エネルギー基準を満たしてい

る住宅には、ポイントがもらえるのです。住宅エコポイントですね。県のエコポイントは建具とか家具ですけど、国のエコポイントは『建材』なんです。それで、ウッドデッキの上に透明なポリカーボネートの屋根をかけることにしました。アルミプラスです。国の住宅エコポイントに加えて、今



グリーンとホワイトのコントラストが美しい明るく開放的な室内



掃き出し窓の外には広々とした庭が広がる



開口部が大きく設けられた明るい和室

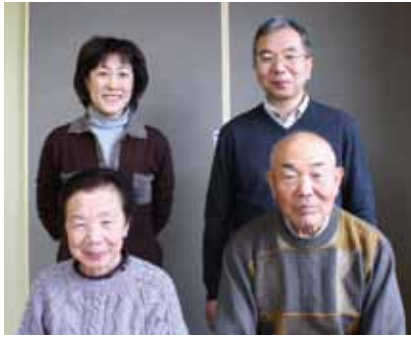


玄関もゆったりとした木の空間

年度から始まった県のエコポイントが使えたのですから、蛸名さんとはフッキーが二つ重なったんですよ。

ご主人の話 家のことに関してはなんでも小坂君（小坂義仁設計室）に相談することにしているんです。彼とは小、中学校のときの同期生で、私は八戸の高校に進学してからずっと東北町を離れてきましたが、彼はずっとここで設計の仕事をしてきました。地元で仕事

をしてきたということは、住宅建築を通じて地元貢献してきたということですね。だんだん歳を取ってきたら、これまで地元にとどまって仕事をしてきた彼の生き方がいいですか、自分も地域に貢献したいって思うようになりましてね。司法書士試験に合格（2009年）したことが、それまで住んでいた弘前から戻ってくる大きなきっかけになりましたね。



施主のご家族

奥様の話 (主人の)両親の家がここに建てたんですけど、二人で住むには広すぎるし、家がお隣の方に寄って建ててしまったから屋根雪が落ちていくのを気にしていました。それに、もう古くなったので建て替えの計画もあったんです。

主人が試験に合格したことでゴーサインが出ました。建て替えた家に同居して、そこで主人が事務所を開けば、すべて解決することになりますから。建てる時期というのはちゃんとやってくるもんですね。

山が整備されなければ 里はつるおわらない

織笠社長の話 小坂さんから電話がきたんですよ、「施主が希望している工期が短くてちよつと厳しいけど受けられるか」って。今年(2010年)の5月でした。打診ですね。小坂さんとはこれまで数回組んで仕事をすることがあります。地元の木を使った家づくりに熱心に取り組んでいらっしゃる建築士さんで、意見が一致する方です。とりあえず、施主さんを交えて3人で会うことにしました。

会って、ちよつとびっくりしました。晃一さんのご両親、つまり、お爺ちゃんとお婆ちゃん、私の祖父のことをよく知ってたんですよ。祖父は大工をしていて、私が3代目になるんですが、お婆ちゃんが、私の子どもころのことを覚えていて、「あんだ、あの人(祖父)の孫だべ」ってね。

照れくさかったけど、うれしかったです。思い出が染み込んでる地元っていいもんだなって。

ご主人の話 小坂君、私の家を建てる工務店はぜひ織笠さんに頼みたいって言ってました。仕事が人と人を結びつけてくれたんです。いい加減な仕事をするとながりがまぜんからね。

織笠社長の話 小坂さんとか、姥名さんとか、県産材を使うことを理解してくれる人たちがいるから、私ら、地元の木で家が建てられるんだけど、木なら外材でもなんでも安けりゃいいっていう大工がまだまだいるんですよ。

考え方も、やり方も人それぞれだから否定はしませんけどね、でも、地域ってそこに住んでる皆のものじゃないですか。皆で地産地消に取り組んで、山が整備されるようにならなければ、里はつるおわらないんです。

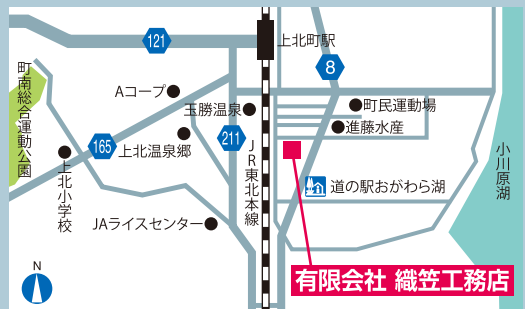
東北町

有限会社 織笠工務店

上北郡東北町旭南1丁目384-1

TEL.0176-56-3915 FAX.0176-56-4195

E-mail: orikasaki@r66.7-dj.com



かみやま建築

ユーザー訪問

伊藤輝貴・あゆみ様邸

- 下北郡佐井村佐井
- 2009年12月竣工
- 延べ床面積／62.24坪(206.19㎡)
- 使用青森県産材／総ヒバ



かみやま建築と 出会った 完成見学会

いま思えば、あのとかが、かみやま建築さんとの出会いだっただなと思えるんです。

出産を控えた家内が、その年の冬にむつ市内の病院に入院していたとき、付き添いに行つて、休憩室で新聞を開いたら、完成見学会の広告が出ていたんです。家を建てる計画でしたから、そういうときって住宅に関連するものはパツと目に付くものですね。見学会の会場はむつ市内で、開催日は「あす」からとなっています。土日の二日間です。建てたのは「かみやま建築」という青森市の工務店でした。

北つていえば昔からヒバの大産地じゃないですか。家内はヒバにあんまり関心を示してなかったんですが、私は、なんてったってヒバですよ。見学会はあすからですが、いまずけに見たくなって、広告に書いてあった神山さんの携帯に電話してみたんです。

ちょうどそのとき仕事で脇野沢にいたという神山さん(神山彰棟梁)に、「見学会の家を見てみたい」と申し込んだら「いいですよ」って、さっそくやってきてくれました。初めてお会いした神山さんは、おっかない感じでしたね、怒られますけど、でも、そういうところがいかにも棟梁つていう雰囲気がありましたね。

見学した家の迫力に、圧倒されました。佐井村のアルサス(『津軽海峡文化館』)みたいに、ヒバの丸太がドーンと立っていました。それで勝負ありですね。ヒバに囲まれた空間と、ヒバのあの清々しい

匂い。

神山さんに、佐井村に建てるんだけどいいですか、って聞いたら、「いいですよ」って。あとはもう、家内をどう説得しようか、そのことだけ考えましたね。

ヒバの丸太柱が ドーンと立つ迫力 「度肝を抜かれました」

奥様の話 主人に連れられて、神山さんが青森市内に建てたという住宅を見に行った



施主の伊藤様ご夫妻



林の木立のように立ち並ぶヒバの太柱

んです。実は、その次の日に、
神山さんに先行して話が進ん
でいたある住宅会社の人と青

森市で打ち合わせすることに
なつてたんですが、主人は、む
つ市で初めて神山さんの住宅



見る者を圧倒する迫力のヒバの丸太柱





を見学してからは、ヒバの家〴〵の魅力に惹かれていたようですから、先手を打って、わたしにもヒバの家を見せようと連れて行っただんです。

拝見するまでは、床とか天井にヒバの板を張った様子を漠然とイメージしてはいたんですが、玄関戸を開けて、中に入ったら、度肝を抜かれました。本や雑誌の写真とはケタ違い

の、実物の迫力！ 床から生えてるみたいなヒバの丸太と、2階へ上がっていく幅広い階段。それを見ただけで圧倒されました。いままで何軒も何軒も見て歩いた展示場や見学会の家はなんだっただらうって思いましたね。

家って、大きな買い物なので、あるていど資金援助してくれることになっていたらた



ヒバの木に囲まれたリビングルーム



リビングの入口の壁には、家族の手形を押したモニュメントが飾られている

しの母親も、別の日に、神山さんの建てた家というより、神山さんご本人に会いたいというので連れて行きました。その帰りに、母から、あの人に決めなさい、って言われたんですよ。神山さんの、大工さんの職人気質っていうんですか、朴訥な人柄がすっかり気に入ったようでした。

いた住宅会社の担当者の対応ぶりが、いかにもせっかちに感じられてきました。その時点で、まだ建てる土地がちゃんと決まっていなかったのに、家族構成からだいたいの間取りをこしらえて、これくらいかかりますって見積もりまで出してその金額見たら、あんまり高いので私の親が具合が悪くなったんです、いま思えば、家を建てるのではなく、売

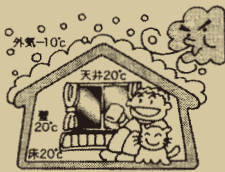
りつける姿勢ですよ。ちょうど良いときに、神山さんと出会ったものです。

奥様の話 3人目の子どもが生まれたのは12月12日でした。そしたら、偶然にも神山さんの車のナンバーも1212だったんですよ。もともと神山さんをお願いするようになってたんだ、っていまでも主人と話をするんです。

2歳になった三男も、上のお兄ちゃんたちに負けないで板敷きの部屋の中を走り回っていますよ。



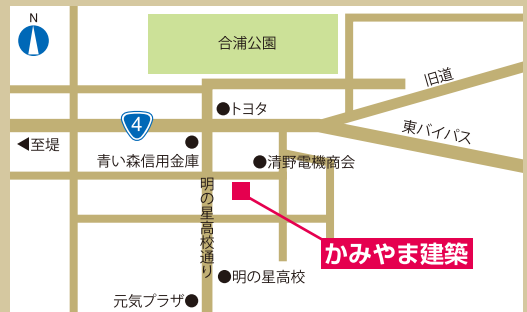
ヒバの柱が美しい和室



暖かさ本物
手づくりの家

かみやま建築

青森市浪打2-2-3 TEL & FAX.017-742-1865
携帯 090-8929-5907
<http://www.kami-ken.com>



有限会社 キーポイントホーム

ユーザー訪問

村上様邸

- 弘前市津賀野 ■2008年12月竣工
- 延べ床面積/26.75坪(88.6㎡)
- 施工面積/28.75坪(95.23㎡)
- 使用青森県産材/ヒバ(土台)、スギ(柱)、スギ集成材(階段、カウンター)、カラマツ(梁)。



完成時に、1軒まるごと県産材使用の『青森の木の家』として公開見学会を開催した。

暖房消しても 室温下がらない 木の保温性

奥様の話 どうかいいと知りませんが、って、わたしの知り合いの人に聞いてみるところから始まりました。大工さんとか、工務店とかで、どうかいいと。

その人は、不動産屋さんに勤めているので、住宅には詳しいと思う。そしたら、すぐその場で、「キーポイントホームさん、いいよ」って褒められたんです。

キーポイントの阿保さん(阿保勝之社長)にお会いする前には、青森市内の住宅展示場も見ましたし、見学会にも行って見ました。でも、わたしが建てたいと思っているの



住み心地、使い勝手の良さにご満悦の施主の奥様

は展示場みたいに大きな家ではなかったから、なんかピンとくるものがなくて……。建物の大きさではなく、しっかりと造りた造りで、『冬寒くない家』がわたしの一番の要望でした。主人は、『木の家』です。帰ってきて、ゆっくりとくつろげる、木の家。それで、そ

の不動産屋さんの人に、木の家で、冬寒くない、しっかりと造りの住宅を建てているところを紹介してもらおうと聞いたら、即答で、キーポイントさんの名前が返ってきたというわけです。

これは、あとで知ったことなんですけど、その不動産屋

の人、実はキーポイントさんで自宅の増改築をされたんだそうですよ。増改築といつても大がかりな新築なみの工事だったそうですが、その人にして、仕事柄、建築関係の方々とはいろいろお付き合いがあったでしょうが、その中から、1社を選ばなければならなかったわけですね。選ばれたのがキーポイントさんです。実際に工事を頼んでみて、良かったから、即答で奨めて



冬でも冷たさを感じないというスギの階段

くれたわけですね。どおりで、説得力があったもの。

わたし、冷え性で、それまで住んでいた家が、古かったからしよすがありませんけど、冬になると震えるほど寒くて寒くて、だから、新築する家の条件は絶対、冬寒くないこと、でした。

阿保さんが奨めてくれた、
「無垢」っていうんですか、
自然のスギの板、キズは付きやすいけど（気になったのは



洋風のリビングを真壁にしてスギの柱を見せている



木目が美しい2階に設けられた造り付けの収納庫

最初のうち、真冬でもほんとは冷たくないし、暖房を消したあとの夜中でも、室内が冷え込んでいないから(阿保さんはそれが木の保温性だと言ってます)、1階のトイレに降りていくのもちっとも億劫じゃありません。

リビングの壁(真壁)にも柱が見えていて、床も、階段も木ですから、生活しながら意識しなくても木の肌が目に入ってきているんですね。家の中では、主人も子供たちも裸足で歩いているから、直接、肌で木と触れ合っているんです。安心できるものでなければ触れ合えせんよね。だから、木の家って、くっころげると、すきこい。

1 軒まるごと

県産材を使用

『青森の木の家』

阿保社長の話 村上さんのご主人と、どんな家を建てたいかという話になったときに、



外部からの視線を遮る格子窓



リビングの上に設けられた吹抜けは、明かり取りの役目も果たす

真っ先に『木の家』がいいとおっしゃいました。1軒まるごと県産材を使って建てた家

は、当社としては、村上様のお宅が初めてです。床には厚さ20ミリの無垢のスギ材を

張っています。スギの板が、これほど保温力が高いとは張ってみて初めて実感しました。いったん室内が暖まってしまうと暖房を消してもなかなか温度が下がらないんです。あらためて木に備わっている保温力を見直した思いですね。以来、当社が手がける家の床にはすべてスギの無垢材を張ることにしています。

階段やカウンターにはスギの集成材を使っていますが、県産のスギの原木を使って秋田の工場で加工したもので、原木が県産ですからこれも県産材と見なされます。

雪深い津軽地方の山で育った木は、津軽の気候に対応できているからこそ育っているわけですね。われわれもこの津軽で生活をしているということとは、地域の気候に合っているからこそ、南国の人であれば逃げ出したくなるような厳しい冬でも耐えて暮らせるわけです。



有限会社 キーポイントホーム

弘前市城東中央2-3-2 サンケイビル101号室
TEL.0172-29-1030 FAX.0172-29-1036
www.ki-pointhome.com/



株式会社 木組工務店

ユーザー訪問

中川 様邸

- 三戸郡五戸町
- 2010年8月竣工
- 延べ床面積／69.72坪(230.97㎡)
- 使用青森県産材／スギ(外壁)、アカマツ(柱)、カラマツ(梁)、セン(階段、ウッドデッキ)、クリ(ウッドデッキ)など。



林の中の1軒屋。別荘のようにも見える。県道から折れ、スギ林のふちを延びる細い道を進んで行った先に、そこだけスギを伐採して切り拓いたかのように広がるゆるい傾斜地に、1軒だけ建物が建っている。それは、ペンションでもなければ、別荘でもない。中川様のご自宅なのである。自然に囲まれた口

ケーションを求めてここに土地を求め、1年がかりで建てた。スギ板を縦張りにしたシェイク葺きの外観、屋根から突き出た薪ストーブの煙突、掃き出し窓から張り出したウッドデッキなどのたたずまいが、周囲の自然と溶け合っており、息づいている。

スギ林に囲まれた 1軒家 自然とともに暮らす

ご主人の話 玄関側の2階の窓から、真正面に朝陽が見えます。窓の向かいのスギ林から昇ってくるのです。反対側の、家の奥の浴室からは夕陽が見えます。ヒバ風呂に浸かりながら眺める夕陽は格別ですよ。街なかから遠く離れた、

スギ林に囲まれたこの土地を求めて家を建てたのは、自然を満喫しながら過ごす生活が味わいたかったからです。

土地を求めるにあたって、妻が要望した条件は、①雑木林があること②八甲田山が見えること――の2点でした。スギ林の中の一画が売りに出されているという情報が寄せられ、見に行ってみると、八甲田山は見えないものの、隣に雑木林があるし、聞こえてくるのは鳥の声だけだし、魅力を感じました。

広さ1町歩。1ヘクタールです。間口40メートル、奥行き250メートル。ゆくゆくは家の周りに畑や田んぼをつくる計画ですから、広さは申し分ありません。そこから眺めた雲の形が見惚れほどきれいでした。夕焼けに染まった雲もまたきれいで、そこを鳥の影が横切っていく情景に郷愁を誘われました。買つことに決めました。



カラマツの梁を吹き抜けて現わして架けた開放的なリビング



岩盤浴できる ガラス張りのヒバ風呂 温泉気分を満喫

木組工務店と出会ったきっかけは、座禅です。私、座禅が好きで、日曜にお寺へ座禅を組みに通っていたんですが、そのお寺の住職さんが、変わった経歴の持ち主で、なんと工務店の社長さんだったんです。座禅好きが高じて、寺を建てちゃったというわけで

す。家を建てる計画でしたから、その住職の息子さん、つまり工務店を継いだ二代目の若社長に相談してみようと会社へ会いに行きました。お顔に見覚えがあると思ったら、聖将(きよまさ)さん(新山聖将社長)でした。中学生のときに一時期、私の『塾』にきていた塾生だったんです。

縁があれば、話は進むもので、それまで設計を頼んでいた建築家から提案されるプランはどれもいまいち家内のイメージに合わなかったんですが、聖将さんが紹介してくれたSOW設計工房(三沢市)のプランは、家内も私も満足のいく内容でした。プランが決定したあとは聖将さんに一任して、急がずに1年がかりでじっくりと建てていただきました。

奥様の話 自然いっばいなのは申し分ないんですけど、心配なのは雪ね。車で通れなくなるんじゃないかって。そこ

55

の県道から、林のわきを通って、ここに入ってくるまで100メートルぐらいあるんですが、まだ家が工事中だった冬に様子を見に来たときに、運転して入ってこれなかったから、そのことがちょっと心配でね。でも、(笑顔になって)

主人が除雪してくれるでしょうけど。

新山社長の話

中川様から

「泊まりにきませんか」とお誘いを受けたときは、うれしかったです。さっそくおじゃますると、玄関ホールの、奥様が海に行っては集めた貝やガ

ラスを北斗七星のかたちに並べたアールの飾り壁の帽子掛けが、優しく迎えてくれました。奥様ご自身がデザインして貼り付けたものです。

実は、中川様邸のヒバ風呂にぜひ一度は入ってみたいものだと思っています。分



シェイク葺きの趣あるスギの外壁



収納スペースを設けた造作のベッド



吹抜けに面した開放的な2階の廊下部分

厚いヒバの浴槽と、壁もヒバで、ガラス張りの外に林を眺めながらたつぷりと張った湯に浸かる贅沢なひととき。洗い場の腰壁や床面には、濡れるとマイナスイオンを発生す

る十和田石が貼ってあります。浴槽内に貼った黒いタイルは、岩盤浴ができるブラックシリカプレート。念願叶って、温泉気分を満喫させていただきました。

カラマツの梁を吹き抜けに現わして架けた開放的なリビング。窓際には、薪ストーブ（バーモントキャスティングスのデファイアント）を据えてあります。幅4メートルの木製サッシの外に見えているウッドデッキは、樹齢140年のセンの1枚板。ご主人が、風呂上りにそこで汗を冷まし



岩盤浴もできるヒバのお風呂



玄関に備え付けられたトチノキ製の腰掛け

ながらビールを飲むのだそうです。スギ林に囲まれた木の家の自然とともに暮らす住まいの中に、豊かな時間がゆっくりと流れていました。



存在感のある薪ストーブ



奥様ご自身が貝やガラスを貼り付けたアールの飾り棚

ぎぐみのいえ

株式会社 木組工務店

三沢市栄町3丁目140-832

TEL.0176-57-4547 FAX.0176-57-4548

E-mail: kigumi@kigumi-komuten.co.jp



株式会社 建匠おだぎり

ユーザー訪問

T 様邸

- 黒石市八甲
- 2009年12月竣工
- 延べ床面積／51.34坪(170.07㎡)
- 使用青森県産材／ヒバ(和室柱、和室造作材)、スギ(造作材)、マツ(構造材)など。



燃えさかる炎 現れる青白いオーロラ

ご主人の話 薪ストーブの天板がだんだん熱くなってきた、上に乗せている温度計が200度を超えると、現れるんですよ、オーロラが。青白い、ガスが燃えているような、オーロラそっくりの炎なんです。たまにしか見られませんが、現れると、夫婦して無言で見入ってますよ。

薪ストーブには、小学生のころから親しんでいました。午後の3時ころになればもう小学校から帰ってくるのでしょ、そうすると、まず薪ストーブ焚いて、それからストーブでご飯炊くのが私の役目だったんですよ。だるまストーブの上の、ドーナツの輪みたいなフタを外して、そこに、研いだ米を入れたカマ(釜)を乗せるんです。ツバガマっていいましてね、土星みたいなかたちをしたツバの付

いたカマを、ストーブの上の穴にはめ込むようにして置くのです。

カマのフタの隙間から湯気が噴き出ると、まだ子どもでしたから初めはあわてたもんですけど、やってくるうちにコツがつかめてくるもので、だんだんと薪のくべ加減なんかも分かるようになってきてね。生活の知恵って、そういう暮らしの中で子どもの中に自然と身に付くもんなんですよ。

薪ストーブを奨めてくれたのは、小田桐さん(小田桐正社



オーロラのようにゆらめく薪の炎

長)です。会社に薪ストーブを付けていて、朝、出社すると、社内が16度もあるんだそうです、真冬でも。それだけ薪の火力が強いということですね。だったら、うちでも薪ストーブ付けようって思ったんですよ。

奥様の話 建てていただく業者さんは、小田桐さんか、黒石のもう1社かのどちらかにするつもりでしたが、結局、小田桐さんに決めたのは、説得力ですね。こちらの質問に対して実に分かりやすく答えてくれました。例えば、断熱の方法ですね、内断熱とか外断熱とか、どっちを選ぶかについては、やっぱり専門的な知識がないと判断しかねるわけですね。内断熱がいいということもあれば、外断熱を奨めるところもありますからね。そういうときに小田桐さんは、簡潔に、分かりやすく説明してくれたんです。信頼感がわいてくれば、じゃ任せようっ



赤々と燃える炎が見た目にも暖かい薪ストーブ

てなりますよね。小田桐さんが弘前市内のある設計事務所に長年勤めていた方だとはあとで知りました。ものごとを熟知してる人って、説明が簡潔ですよ。

ご主人の話 リンゴ農家の友人がいましてね、秋にリンゴの収穫が終わったあとに、剪定しておいたリンゴの枝を持ってきてくれるんです。去年、剪定した枝です。それを1年間乾燥させて、どっさり軽トラに積んで運んできてくれるんです。リンゴ畑でただ燃



燃料として使用している剪定したリンゴの枝(左)と、焚き付けにするキウイの枝(右)





欄間や神棚に職人の技が光る和室

やすだけならゴミですが、薪ストーブで燃やせば燃料ですからね。

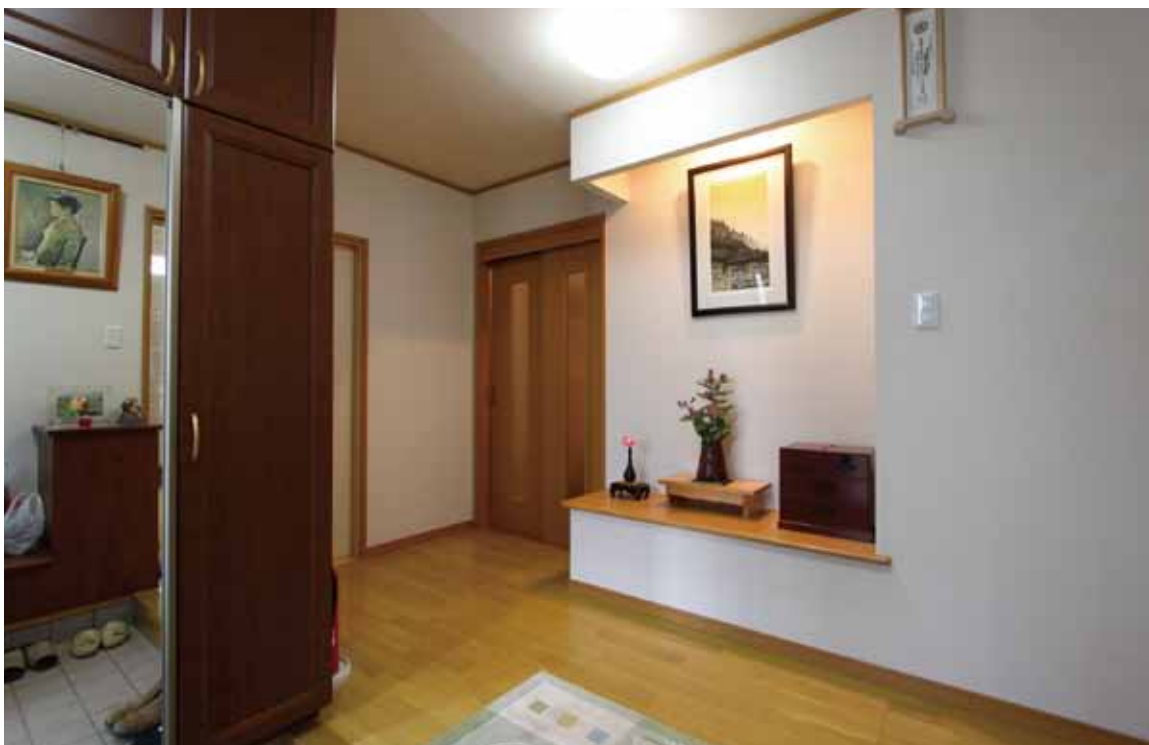
うちのおふるがるが言うには、昔は、薪は3年間乾かしたものだそうです。どの家でもみんなそうしていたというわけではなく、裕福な、おおやけ、ではじつくりと乾燥させたものを薪に使っていたということなのでしょう。でも、3年も乾かせばちゃんと燃えてススが出ませんから、薪にも生活の知恵が生かされていた

んですね。

奥様の話 リンゴの剪定枝だけじゃなく、うちの庭にも有効利用している枝があるんですよ。キウイです、あのキウイフルーツの枝。長くなれば切り落としておいて、それを拾ってきて焚き付けに使えます。これも、一種の地産地消ですね。

小田桐正嗣(ただつぐ)氏の話
炎が見えるストーブ、人気が出てきてますね。今井産業さん(平川市 今井公文社長の





ゆったりとしたエントランススペース

当社がある『虹いろの杜』で、ひと月近くにわたって開催された「住まいと平川特産品」『リフォームマッチングフェア』(2010年11月)に参加して、薪ストーブとペレットストーブを展示したのですが、お客さん、けっこう熱心に質問しましたよ。「ペレット1袋(10キロ入り)で何時間持つのか」とか、「断熱煙突ってススが付きにくいっていうけど、それでも毎年掃除しなきゃならないのか」とか。これからは木質バイオマスの薪やペレット燃やして、皆で環境を守っていかなくちゃと思いますね。



リフォームマッチングフェアに出展

まごころと匠の技

けんしょう
株式会社 **建匠おだぎり**

弘前市大字石川字中川原29-2
TEL.0172-92-3555 FAX.0172-92-2655
E-mail: sales@kensyou-odagiri.com



建築組パックス 有限会社

ユーザー訪問

工 藤 様邸

- 八戸市売市 ■2010年7月竣工
 - 延べ床面積／34.17坪(113.19㎡)
 - 使用青森県産材／スギ(柱、梁、外壁一部、建具)、アカマツ(階段)、カラマツ(デッキ)、クリ(土台、床)。
- ※国の長期優良住宅認定および住宅エコポイント認定住宅。



建物を正面から眺めると、屋根の中央がアールを描き、そのアールの両側に設けられた緩い勾配の片流れの屋根の線が、外観のバランスをうまく保っている。外壁の正面の一部にスギ板を張り、その前面に5寸角のスギの柱を立てた車庫を設置、スギで母屋と車庫との一体感を図っている。車庫に隣接する物置には、玄関から外に出ることなく、1階の掃き出し窓からウッドデッキ(カラマツ)を通じて直接利用できるよう設計の細かな配慮が行き届いている。

太い柱と太い梁

丈夫な『5寸角の家』

奥様の話 アパートの郵便受けに投げ込まれてあった戸別配布のチラシで、建築組パックスさんの構造見学会があることを知りました。家を建てようとして、ちよつと土地探しをしていました、その時点では



正面の一部にスギを張った外観

まだ土地は決まっていなかったのですが、チラシに書かれていた『県産材住宅、自然素材の家』に惹かれました。書店か

ら買った住宅の本でも雑誌でも、木を使った家のページが目とまっていたから、建てるなら、木が見える家。

を希望していました。

主人は、わたしほど木にこだわりがなくて、木の家といえは襖や障子が建ち並んだ昔風の和風住宅をイメージしていたようですが、チラシで知った、パックスさんの太いスギの柱や大黒柱が立つ、見るからに頑丈な『5寸角の家』の構造見学会と一緒に訪れてからは、イメージががらっと変わったようで、わたしが要

望する木の家に賛成してくれるようになりました。

太い柱と、太い梁。いかにも家を支えているといった頼もしい太さの木を見ただけで、丈夫な家に見えます。会場で初めてお会いした大西さん（大西昇社長）に、断熱のことや、暖房のことなどを聞いてはみましたが、結局は、専門家にお任せするしかありません。大西さんの説明に一応は





キッチンにも県産材がふんだんに使われている



屋根裏スペース(上)とそこへ上る階段(下)

うんうんとつなずきながら、気がついたら、5寸角の太い柱に知らず知らず触っていました。

家を建てようとするときに、わたしたちにすれば、実際に建てた人の体験談のほうがずっと身近ですし、具体的に参考になります。構造見学会の会場で、その後に開かれた完成見学会にも参りましたら、ちよつと建て主のSさんも来られていて、Sさんの奥

様が、「大西さん、良心的ですよ」とおっしゃっていました。実際に建てた方の、こういう実感ある話が一番説得力がありますね。

家全体が一つになったオープンな空間

開放的に、ということ、明るいこと。この2点を大西さんにお願いしました。部屋ごとに仕切られているのではなく、1階と2階とがつながった、家全体が一つのオープンな空間、というふうなつくりですね、帰ってきて、ほっと一息つけるような。拝見したSさんのお宅がそのイメージに近かったんです。



直射日光が入らないように、天井近くに取り付けられた明かり取りの窓



白い壁と木肌が見た目にも涼を誘う

猛暑日が続く8月から新しい家での生活が始まりました。玄関ホールからリビングに入ると、床から2階の天井（勾配天井）まで7メートル近くある高い吹き抜けの空間が



5寸角のスギ柱で支えられた開放的な車庫

開放的に広がっていて、実にくつろぎを覚えます。くつろげる場所こそ自分の家ですものね。連日猛暑日でしたが、扇風機1台で過ごすことができました。確かに、かっと陽射しがまともに照り付ける外よりは、家の中が幾分温度は低いようでしたが、柱や梁の木の色、それに漆喰の壁の白さが見た目に涼しさを与えていたのではないのでしょうか。スギの木や、床のクリの木が、窓か

らの直射日光を受けていても、決して暑苦しくは見えませんよね。木肌の色っていうんでしょ。暑さを吸い取ってくれるような涼しさがありますよね。それだけでもずいぶんと凌ぎやすかったです。それと、これも大西さんに言われて納得したことなんです。2階の窓が天井近くについているのは、明かりは入るけれど直射日光は入らないように付けているのだそうです。そういう配慮が生かされて、室内が過ごしやすかったのでしょう。

2台ある車の車庫も作らなければなりませんでしたが、スペースは家の前しかありません。せっかくの新しい家が、それが気がかりでしたが、大西さんが、家と同じ5寸角のスギ柱を立てて屋根だけかける開放的な車庫をこしらえてくださいました。『5寸角の車庫』と自慢しています。

PACS
Perfect Architecture Consulting System

建築組パックス株式会社

八戸市大字新井田字石動木平1-1
TEL.0178-25-6020 FAX.0178-25-5542
http://www11.ocn.ne.jp/~pacs
E-mail:pacs@sage.ocn.ne.jp



**建築組パックス
株式会社**
長期優良展示住宅

企業組合 県木住

ユーザー訪問

瓜田 様邸

- 青森市自由ヶ丘
- 2010年11月竣工
- 延べ床面積/35.24坪(116.75㎡)
- 使用青森県産材/ヒバ(土台)、スギ(柱、梁、床、外壁、ポーチ柱)。



施主が自らチェンソーで山のスギを伐り倒す『もくもく伐る伐るチェンソー体験会』に参加。この体験会は、県木住が施主参加型の『スローな家づくり』として行っているもので、青森県森林組合津軽木材流通センターの工藤所長の指導を受けながら、ご夫婦が初めて山林でスギの伐採に挑戦した。伐採だけでなく、ご家族揃って外壁のスギ板の塗装や、内壁の漆喰塗り、スギ床の自然塗料塗りも体験した思い



漆喰の内壁には記念に家族の手形が押された

入れのある家。食べ物も暮らし方も手を加えない自然に近いものを求める——という瓜田家の生活スタイルに合わせ、暖房はエコな薪ストーブを採用した。

自然・エコ・木の家 ネットで検索したら 『県木住』

奥様の話 『県木住』の名前と出会ったのはインターネットです。雑誌を見ながら、こつこ

う家がほしいなと思い、①自然のもの②エコ③木の家——と三つ打ち込んで、そこからいろいろ検索していったら、住宅会社の中に県木住があったのです。青森市にも自然の木で家を建てている会社があるんだって、わたしも主人もそのとき初めて知りました。

すぐに建てるのではなく、子供が小学校に上がるまでにあと2年半ありましたから、その間に、まず土地を探して、土地が決まったら設計を頼んで、ついでに、ついでに予定していたんですが、県木住にメールで資料請求したら、てっきり送られてくるものとは、思っていたのに、すぐ次の日、山崎さん(営業・山崎晃氏)が届けてくれたんです。えっ、わざわざ持ってくるんだ、ってちょっとびっくりしましたけど、でも、最初にお会いできたことで、さっそく土地探しの相談もできましたし、結果的には良かったです。



ドアや壁の仕切りを極力排除した広々とした空間

土地は、新聞に入ってきたチラシを見て、いま住んでいる小柳の実家から近い住宅地



客間も板敷きにしてリビングと一体に

に決めたのですが、そのころには主人もわたしも何軒か拝見した県木住の建物に魅せられていたので、山崎さんをお願いしようって決めていました。

ご主人の話 届けてくれた資料の中に『真産材の家』という本が入っていました、読んでみたら、「建てる良かった」というご家族の実感というか、満足感がストレートに伝わってきました。それで、本で紹介されていた方が参加したという『チェンソー体験会』に私も



吹抜けの和室は外光を採り込んだ明るいスペース

暮らし方も食物も 自然に近い方がいい

奥様の話 暖房は薪ストーブ
です。生活をあんまり便利に

挑戦してみることにしたんです。ところがその日は春なのに猛吹雪で、リビングの外のテラスに立ってるスギの柱(6寸角)を見ると、いまでもあの吹雪の中で緊張しながら伐り倒したことがまざまざと思ひ出されますね。

したくないんです。薪ストーブだと、薪割りもしなければならぬけど、ボタン一つで点く石油ストーブよりは自然に近いでしょ。

食べ物にしてもそうです。うちの子どもを通わせている保育園も、自然の食べ物を重視する穀物主義なんですよ。『県産材の家』の本で紹介されていた方のお子さんも、それから完成見学会で拝見したお宅のお子さんも、同じ保



室内の暖房は薪ストーブ1台でまかなわれている



ステンレスを張り付けたシンプルでモダンなデザインのキッチン



2階も仕切りの無い開放的な空間が広がる



スギ板とマッチした頑丈な木製の玄関ドア

育園だったんですよ。つながってるなあって感じました。
ご主人の話 開放的な間取りにしたい、という点では夫婦の意見がぴったし一致しました。部屋ごとに壁やドアで区切るのではなく、家の中が一つになった広い空間ですね。単身赴任をしているので、休日に家に帰ってくれば、のびのびとくつろげるような開放感。居間と客間と畳スペースを合わせると30帖近い広さがありますし、リビングの上が大きな吹き抜けになっていて、太い梁とか、2階の手摺りや天井の板なんかが見えるので、自宅というよりは山小屋にきているような感じがします。

帰宅すると、さっそくストーブに薪をくべて、なんにも考えないで炎を見ます。それが一番のくつろぎですね。十分充電して、休日が終わればまた単身赴任先へ出かけて行くんですわ。

近くの山の木で家をつくる **企業組合**

県木住

企業組合 県木住

青森市松原1丁目16-25 (青森県森林組合会館内2F・3F)
 TEL.017-732-5333 FAX.017-732-5777
<http://www.kenmokuju.com> E-mail: info@kenmokuju.com

■第3回あおもり産木造住宅コンテスト優秀賞受賞

